

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
会議名 (審議会等名)	第2回嬉野市総合計画審議会・総合戦略推進委員会		
開催日時	令和7年12月23日(火) 9:30～12:00		
開催場所	嬉野市役所塩田庁舎3階 3-2会議室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員 (敬称略)	山下勝一郎、戸田順一郎、金林武彦、鶴田英樹、西川潤一、 深村頌子、大門光、山口健一郎、坂口典子、宮崎憲太郎、 谷山佳世、久野裕子、山口輝	
	事務局	総合戦略推進部長、企画政策課長、副課長、主査	
	その他		
会議の議題	① 開会 ② 委嘱状交付 ③ 委員紹介 ④ 協議事項 (1) 第3次嬉野市総合計画基本構想案の検討 (2) その他 ⑤ 閉会		
配布資料	① 第2回嬉野市総合計画審議会・総合戦略推進委員会次第 ② 第3次嬉野市総合計画基本構想案 ③ 第3次嬉野市総合計画の将来像について		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	1. 第3次嬉野市総合計画基本構想案の検討 2. その他		
内 容	1. 事務局より説明。委員質問・事務局回答、委員の意見等 2. 事務局より説明。委員質問・事務局回答、委員の意見等		
審議経過	事務局	(第3次嬉野市総合計画基本構想案について説明)	
	議長	まずは序論についてご意見はないか。	
	委員	1 ページ序論の策定の目的において人口減少、高齢化については以前から言われていたことと思う。日本全体の課題だけではなく、嬉野市では嬉野高校と塩田工業の統合や U-Spo のオープンなどがあるので入れてほしい。 外国の方が佐賀県の中でも人口増加となっている。 見渡せば外国人の方がいる状況の中なので外国人住民に関する計画内での位置づけを教えてほしい。	
	事務局	策定の目的については嬉野ならではのトピックについて盛り込みたい。 外国人の方については多文化共生の分野になると思う。序論や基本構想の中というよりは、最後の 19 ページの体系図にて基本方針 6 にて人権・男女共同参画の中に多文化共生が入っている状況である。	
	議長	後半の基本構想部分を含めてご意見はないか。	
	議長	19 ページ、体系図について、基本方針とはこれまでの総合計画の中でもあったかと思う。今回の総合計画においてこれまでと違うところは基本目標であると思う。総合戦略の視点が基本目標だと思うが、今回の基本目標がどういう位置づけなのか教えてほしい。	
	事務局	基本目標については総合戦略を意識した形で設定をしている。その下に基本方針をぶら下げていて基本方針が基本計画に関連してくる。今回において総合戦略と基本計画を一体的に策定したいという意向がある。 最終的に実施計画部分において総合戦略としたいという考えがあり、基本構想の部分でも総合戦略を意識した形にしている。一体的な策定を考えた中でこういった作りがよいと考えている。ちなみに第2次総合計画後期計画の中でも4つの柱として設定をしている。 ・世代を超えて住み続けるまち	

		・「人」輝き活力あふれるまち ・支え合う喜びが広がるまち ・自ら考え、自ら動く自発のまち としている。 今回は内容的にも大きく変えてはいないが若干修正をしている。 後期基本計画内では設定していた横断的なプロジェクトは今回の計画では煩雑になりかねないため設定していない。 総合戦略を意識しながら基本計画を策定していくが、いずれにしても実施計画内では反映をしていく。
	委員	10 ページについて、観光分野が満足度△重要度◎となっているが、市の観光戦略では KPI 観光人口 195 万人、KGI 観光消費額 175 億円を目標としている。令和 6 年時点で既に人口 240 万人、消費額 173.9 億円に達しているものの、調査結果では満足度が低い。新幹線開業で日帰り客は増えたが、宿泊客はコロナ前の水準（60 万人超）に届いていない。観光庁の指標で換算すると、現在の観光消費は人口約 4 万人分の経済活動に相当するが、その恩恵が嬉野に落ちているかというところでもない。お金を落としてもらう仕組みを作るといことも頭にいれて計画を作っていないといけない。
	事務局	観光戦略の目標達成状況とアンケート調査での住民実感との乖離がある。具体的な事項であるため、基本計画や実施計画の中でも盛り込んでいきたい。 結果を見たときに行政、民間の取り組みを複合的に評価してもらっていると思う。感じている結果と違っているのかなと考えている。 観光と商業をひとくくりにしても左上（グラフ：満足度◎重要度△）となっている。より市民の期待度が高いと感じている。移住・住まいについては市の施策として力を入れていたが、住まいについては市の施策として取り組みが薄いと考える。 より満足いただけるような分野での取り組みをしていきたい。
	委員	観光業だけが市民がとらえているものではない。塩田と嬉野でも感じていることは違う。 旅行業から商工業への波及効果が出ていないという声が聞く。 国から補助が出ている中で、その他の分野に波及効果が出ると良い。 観光は市のイメージリーダーとして名前が出ている。旧塩田町として住んでいる方々の層が違う。旧塩田、旧嬉野の空気があるのでなるべく無くしていけるとよい。
	委員	先ほどの WS の報告でもあったが、交通アクセスがすごい悪い。
	西川委員	嬉野市街地と吉田地区は距離が近いものの、夕方頃は移動がしにくい。路線バスの本数も少ない等、交通手段と買い物の場所は課題としてよく

		挙げられる。滞留人口が増えてお店も増えてきているので、そこから波及していけるといい。
議長		市民アンケートなので当事者性が強い課題と行政サービス性の強い課題が混ざっているのでブレがあることはしょうがないと思う。
事務局		(第3次嬉野市総合計画の将来像について説明)
委員		歓声が聞こえる嬉野市、歓声が響き合う嬉野市についてはこれを作った当時から関わり、職員の熱意も知っているので、今回も引き継いでほしい。
事務局		嬉野市のシティプロモーションとしては「うれしいをいっしょに」としている。関連付けて考えるのか、歓声が聞こえるなど総合計画ならではとして踏襲していくのかという大きくは2つと思う。 案から選ぶこともよいが、ワードでも良いのでご意見を頂きたい。
委員		人口減少、高齢化などこの10年間でものすごい時代を迎えると思う。行政に頼るのではなく、市民一人一人がアクションしていくべきと思う。市民一人一人が行動してうれしいを一緒にできるフレーズが良いと思う。
事務局		この案からではなくもう少し分かりやすくしてほしいということか。
委員		その方がいい。みんなが前向きに話し合える、その先には歓声があるというイメージ。
委員		将来像なのか、それに向かう手段なのかがあり、難しい。
議長		この場で決めるのか
委員		将来像案が9つあるが、スローガンのようなイメージである。スローガンと目標は違うと思う。スローガンであればイメージである。 市長とも話していたが歓声は活気のあるまちにしたい意向だと思う。歓声を大事にしていたイメージがある。 小学校のグラウンドで子供たちが遊んでいるイメージ。楽しいイメージ アンケートの結果をみると歓声については希望が薄い。
事務局		歓声については活気のあるというニュアンスが強かった
委員		庁内アンケートの結果は世代別で分かるのか。
事務局		そこまで把握していない。

	うれしいに向かっていくアクション系のフレーズが良いのか、うれしいや癒しのような案もある。 人口減少の時代に対応していかないといけない。癒しなどもあるがそうは言っていないイメージである。 本日は決めきれないのでオープンチャットで意見を伺いたい。 (その他 前回質問への回答・今後の会議について) ・ハウス団地について嬉野町において計画はない。農業政策課には嬉野町で計画があった際には協力をお願いしたいと伝えている。 ・空き店舗については嬉野町については 141 店舗ありそのうちの 36 店舗が空き店舗である。塩田においては 40 店舗あり空き店舗はない。 ・離農する際には廃止届は現状ないため把握が難しいという回答があった。 ・婚姻数と離婚数について、離婚数は 2015 年では 1,000 人中 1.5 件ある程度。全国平均は 1.7 件。最終的なこどもの出生数との紐づけは調査をする必要がある。 ・空き家については対策計画を令和 4 年度もしくは 5 年度終了している現状である。再度総務防災課で策定を計画している様子。昔の計画上において平成 28 年 428 件であった。今後の計画策定のなかで明らかになっていくと考える。 ・次回の審議会は令和 8 年の 2 月 20 日 9 時 30 分から同会議室で予定 ・議題は基本構想の確定、各種アンケートの報告を予定している。
その他	今後の委員会予定について説明 次回は R8.2 月頃、各種調査結果の報告と基本構想案について協議・検討予定。